

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172901225		
法人名	有限会社 ほほえみゆたか		
事業所名	グループホーム すてきだね ほほえみ館		
所在地	旭川市東光15条5丁目2番12号		
自己評価作成日	平成30年6月30日	評価結果市町村受理日	平成30年7月31日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kan=true&JigyosyoCd=0172901225-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成30年7月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> 入居者さんの状況に合わせて柔軟な支援を行っている。 入居者さんのペースに合わせた生活を送れるようにケアを行っている。 可能な限り椅子に座る、トイレでの排泄を促す、自力で摂取できる等工夫をして取り組んでいる。 地域の方々や家族の方々との交流がある。 (イベント:ほほえみ祭り、花火大会、敬老会、クリスマス会等) 母体の山下整形の理学療法士の専門的アドバイスを受けられる。 ハンデを持ったスタッフが継続して働けるよう、スタッフ全員がフォローし、働きやすい環境を作っている。 スタッフ同士の中が良い スタッフの休み希望がほぼ取れる。 毎月すてきだね通信と個人通信を発行している。 資格取得にかかる費用の助成をしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>母体医療法人が運営する開設16年を迎える鉄筋コンクリート造り2階建て2ユニット(定員:18名)の認知症対応型共同生活介護事業所(グループホーム)です。</p> <p>花火大会や「ほほえみ祭り」等のイベントの開催の際には、地域の人々や家族等に参加を呼びかけたり、よさこいやキッズダンス等のボランティアの協力を得るなど地元の人々との交流や連携に取り組んでいる。</p> <p>一人ひとりのその日の希望に沿って、東部中央公園へ出かけてのお花見や大型ショッピングセンターのファーストフードで食事を楽しんだり、家族も参加してキトゥン森林公園で森林浴を楽しむなど、普段では出かけられないような場所へも出かけられるように支援している。また、ひよっこ踊りや民謡、カラオケ等のボランティアの慰問を受けるなど楽しみごとや気分転換等の支援をしている。</p>

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果 ↓該当するものに○印	項目	取組の成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30、31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	独自の理念を玄関に掲示している。パンフレットやホームページにも掲載している。 新人研修の際に説明し共有に向けて取り組んでいる。	事業所独自の理念を作り、見やすい場所に掲示している。また、新人研修やミーティング等で話し合い職員間で共有し、実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入している。町内会長には運営推進会議に参加の協力を得て、イベントにもご理解を得ている。近くのコンビニに入居者さんと一緒に買い物で利用させていただいている。	町内会に加入して、花植えや清掃等の町内行事への参加や花火大会や「ほほえみ祭り」等のイベントを開催して地域の人々との交流の機会を設けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して、いつでも相談してくださいと発信している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回の運営推進会議を行い継続して取り組んでいる。少しずつ地域の方の意見も出るようになってきているが、まだまだ課題は多い。	年6回を目安に運営推進会議を開催して、介護保険制度や事業所の取り組み状況、利用状況等の具体的内容について話し合い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	包括支援センターとは密に連絡を取り合い、協力関係は築けている。	市担当者や包括支援センターとは、日常業務を通じて情報交換しながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関の施錠はしていない。 夜間は防犯の為に施錠をしている。 非常口は、施錠をしているが、すぐに開錠出来るように側にカギを置いている。 身体拘束等の適正化のための指針を作り直し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を外部研修会参加や内部研修会を開催して、正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新人研修として虐待について学ぶ機会を作っている。 虐待についても十分理解し防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は外部の研修に参加し、いろいろ知識を得ているが、職員にまで、詳しく周知は出来て居ない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前には説明を行い。疑問点があればいつでも話を聞き、説明する体制を整えている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置しているがほぼ利用はなし。ご家族来訪時に、何かあれば話を聞くことにしている。	個々の家族へ、日常の生活の様子や健康状態等を知らせるお手紙や「すてきだね通信」を発行して情報提供しており、意見や苦情等を言い表せる機会を設け、そこでの意見等を運営に反映できるよう努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的に意見を聞くように努めている。職員からの要望や意見は柔軟に取り入れている。	日常業務やカンファレンス等を通じて、職員からの意見や提案を聞く機会を設け、そこでの意見等を運営に反映できるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現場管理者より、職員個々の勤務状況の報告をうけている。なかなか給与に反映することは難しいが、その分、希望の休日や賞与に反映できるように努めている。資格取得に関する費用の一部助成も行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	努めているが、研修機会が少ない。職員が不足しており、なかなか参加をしてもらえないのが現状である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	管理者は包括の職員、他の圏域の職員と協同し勉強会を企画委員として参加し交流をしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用の前に本人や家族と面談を行い安心して生活しているだけの様な関係作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からも困っている事や不安に思っていることを聞き、良い関係を作れるように努めている。 要望にも出来る事、出来ないことをしっかりと説明し理解を求めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今必要な支援は何かを判断し、出来る事はしてもらいながら、必要な支援を考え提供し、なるべく早く落ち着いた生活が送れるように支援している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事をしていただき、助け合いながら暮らしている。 茶碗洗いや洗濯物の片付け等行っていただいている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との関係も比較的良好で、面会時等には食事の介助や水分摂取の介助も行ってもらっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	中々難しい。ご家族を介して馴染みな方を連れてこられる事はあるが、徐々に離れてしまっている。	散歩や外気浴、お花見や買い物に出かけるなど馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の状況を把握し、スタッフが間に入り関わり合えるように努めている。個性的な方が多く、入居者同士より入居者と職員のかかわりの方が多。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談にはいつでも対応している。 健在の入居者さんの場合は、様子をうかがいに行ったり現在の状況を聞いたりしている。		
Ⅲ そのらしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	話を聞ける方は、日常の会話から本人の希望を聞くようにしている。 意思表示が出来ない方が増え把握が出来ない現状がある。	日常業務やカンファレンス等で職員間で話し合い、情報を共有できるように努めている。また、一人ひとりの希望や意向等を把握しながら本人本位に検討している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に生活歴の情報を得て把握に努めている。入居後も、経過を見ながら出来る事、出来ない事の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の様子を観察することで把握に努めている。また、連絡ノートや記録を見ることで情報を共有し把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の要望は聞いている。日常的にケアの仕方や疑問があれば、スタッフ間で検討し、ケアに反映しているが、もっとスタッフ間で意見を出しあえるともっとより良いものが出来ると思っている。	本人・家族の意向や要望、医師・看護師からの指導や助言、モニタリング等を通じて職員の見解やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。また、状態変化時には都度見直しを実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報を共有してケアに活かしている。記録が十分にできる職員とまだ足りない職員がいるのは事実であり、まだまだ改善が必要であると考えている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	母体の山下整形でのリハビリの活用。調剤薬局や、福祉用具業者との連携等、必要に応じて柔軟な支援体制に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内化の行事に参加協力。 週一回セブンイレブンに買い物。 パン屋さんの訪問販売の受け入れ。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関と連携が出来ており、特にかかりつけ医がない方は、転院をしてもらい安心して生活を送ってもらっている。継続してかかりつけの病院にかかりたい場合は、受診の協力をしてもらおう場合と、どうしても無理な場合は相談にのっている。	受診は、本人及び家族等の希望するかかりつけ医となっている。また、協力医療機関との連携や通院等への支援、日常の健康管理で適切な医療を受けられるようにしている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師との連携は取れている。日頃から些細な事も報告し情報の共有をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合は、適宜様子を見に行き、早期に退院が出来るように向けて支援してる。医療機関にも、なるべく早期に退院が出来るようにお願いをするようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	終末期には、家族の思いを最優先に考え、看取りの希望があれば、医師、看護師と相談し、看取りの支援を行う体制は出来ている。	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合い、事業所ができることを十分に説明しながら方針を共有している。また、ターミナルケアを実践している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命講習を受講し応急手当の訓練を行っている。 不安があれば管理者への報告体制を整えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練の実施。地域への連絡体制の依頼もしている。 日中帯、夜勤帯の想定で訓練を実施している。	建屋は、鉄筋コンクリート造りになっていて昼夜を想定した年2回の火災避難訓練や救急救命、応急手当の訓練も実施している。	

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃より観察をしてその人に合った言葉かけや対応をしている	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉使いがないようミーティングや内部研修会の開催等で職員間に周知している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望を聞けるように声掛けをしている。 希望を言える方はなるべくかなえれあげられるユニ努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	一人ひとりのペースを大事にしている。人員配置、不足でこちらの都合に合わせてもらっているところもある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の整容や身だしなみには気を配っている。 個人で化粧水や乳液を使える方は自分で行ってもらい、出来ない部分は支援してる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりに合わせた食器や箸、スプーン等工夫して自力で摂取してもらえるように促している。出来る方と一緒に準備や片付けをしている。米研ぎや布巾の消毒も行ってくれている。	食事の全介助が必要な方々が増えてきているが、一人ひとりの好みや力を活かしながら、食事の準備や後片付け、食器や茶碗洗いを職員と一緒に出来るよう努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の献立は業者を利用している。 食事と水分の摂取量は一日トータルで		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後うがい、歯磨きを行っている。介助が必要な方には、必要なケアを行っている。 就寝前には、義歯を外してもらい洗浄剤を使用して清潔保持を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄のパターンを把握し、一人ひとりに合った支援をしている。歩行や移乗が困難な方でも、トイレでの排泄を促すような支援をしている。	一人ひとりの力や排泄パターンを排泄チェック表で把握し、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然に排便があるように乳製品等を利用している。 Drと相談し、下剤の使用もしているが、なるべく負担が無いように一人ひとりにあわせて対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	決まった時間の中での入浴となっている。また、身体機能の低下や認知症の進行に伴い、浴槽に入る事が出来ない方も増えており、その方に合った支援の方法で対応している。	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて週2回の入浴を目安に個々に沿った柔軟な支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人ひとりに合わせた休息の時間を作り支援している。 夜間も自室でゆっくり休んでいただけるように室温等にも気を付けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人個人の服薬一覧がいつでも確認できるし、薬剤師にも協力をしてもらい、一包化や名前、日付の印字等わかりやすくしていただいている。きちんと確認し服薬介助を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人ひとりの出来る事を探し行ってもらっている。食事の後片付けや、洗濯物干し等行ってもらっている。その他、カルタや風船バレー等でも楽しんでもらっている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候に左右される部分が大いだが、少しの間でも外の空気を吸う時間を作っている。昨年はバスに乗り森林浴にも出かけた。身体的に出かけられない方も増えてきている。	一人ひとりのその日の希望に沿って、東部中央公園へ出かけてのお花見や大型ショッピングセンターのファーストフードで食事を楽しんだり、家族も参加してキトウシ森林公園で森林浴を楽しむなど戸外に出かけられるように支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理出来る方がいない為、使える方は、預かり必要に応じて、買い物に出かけたりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望される方は、電話を掛け家族とお話をする機会はあるが、現在は、1.2名しかいない現状。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度湿度に気を付け支援している。状況に応じてソファを購入したり、皆さんが利用しやすい環境を作るように工夫している。	共用空間は広く、季節ごとの飾りつけや一人になったり、談笑できるスペースが用意されて居心地よく過ごせるような工夫をしている。また、利用者にとって気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとり落ち着く場所で過ごして頂くようにしている。日頃より観察し、居場所作り工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、自由に使ってもらっている。状況により、過ごしやすいように模様替え等の提案をさせていただき、介助する側も使いやすいようにさせてもらう場合もある。	居室には、使い慣れた家具や寝具、日用品等が持ち込まれ本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	色々工夫している。場所がわからない方がいれば、わかりやすいように貼り紙をしたり名前を書いたり。介護用具が必要になれば、使用したり作ったりして工夫している。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム すてきだね (ほほえみ館)

作成日: 平成 30年 7月 23日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組内容	目標達成に要する期間
1	13 27 38	入居者さんの身体的低下、認知症の進行に伴い 介護量が増えている。	介護力のスキルアップ	介護技術、認知症ケアの研修、勉強会 オムツの当て方、移乗、体交、ボディメカニクス 出来ない理由を探さない。出来る方法を探す。	12ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入してください。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加してください。

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172901225		
法人名	有限会社 ほほえみゆたか		
事業所名	グループホーム すてきだね ゆたか館		
所在地	旭川市東光15条5丁目2番12号		
自己評価作成日	平成30年6月28日	評価結果市町村受理日	平成30年7月31日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosvoCd=0172901225-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成30年7月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ご家族様に毎月、入居者様の様子などを個人通信にて発行している。 明るい職場で、スタッフ同士仲が良い。 入居者様とスタッフの笑顔が多い。 入居者様一人一人に合わせた支援を行っている。 入居者様のご家族ともコミュニケーションが取れていて、良好な関係が築けている。 ほほえみ祭りやクリスマス会・花火大会等行っており、ご家族に参加頂いている。 外部研修の機会を設けている。資格取得の援助も行っている。 スタッフも20代から在籍しており、男性スタッフもいるので、幅広く支援出来る体制をとっている。 入居者様の出来る事を見つけて、それを行って頂く事で生活リハビリを兼ねた、支援を行っている。 穏やかにゆったりと過ごせて、アットホームな施設内の環境。 ご家族の協力を頂きながら、気分転換を兼ねて外出の機会を設けている。 職員同士のチームワークが取れている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>(外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点)</p>

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関入り口に掲示しており、管理者と職員は常に理念を意識して、実践に繋げる様に努力している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	以前は、花壇の清掃に参加していたが、現在は参加出来ていない。 ホームで行っている行事等の案内は行って、参加もして頂いている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	相談があれば、いつでも話を聞ける体制が出来ている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、運営推進会議を行っており、ホームの行事や入居者さんの状況を報告している。 話し合いによって出された意見などは、活かすようにしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターといつも連絡を取り合い、相談等もさせて頂きながら協力関係を築いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを行っている。 夜間のみ防犯の為、施錠している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や資料などで得た事を職員一同で共有して虐待防止に努めている。 会話の際も馴れ合いになり、言葉が適切でない事があるので、気を付ける様にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は学ぶ機会が少ないので、今後、増やして行ければと思っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にご家族に説明を行っています。また、その際、聞けなかったことや解からない事も何時でも聞く事が出来て、説明出来る様にしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃よりご家族とコミュニケーションを取る様に心掛け、ご家族様はいつでも管理者や職員に意見や要望を言える関係を築いている。また、反映出来る様に努めている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員とは、何時でも意見や提案が言える関係を築いており、それ以外でも個人面談など行って、反映出来る様にしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境は良いと思います。労働時間も条件にあった時間や曜日で働いて頂いている。ただ、スタッフ不足にて、多少のお休みを変更して頂く時もある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人外の研修の機会やそれ以外にも色々な研修や勉強会の参加を促している。参加出来なかった場合は資料などを参考にしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	管理者は同業者との交流があり、勉強会などを通じて良い刺激を頂いている。相互訪問は無いが、今後は機会を設けてサービスの質の向上に繋がりたいと思います。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを開始する前にご本人やご家族のお話を傾聴し、ご本人の思いに添い、安心して生活して頂ける様、信頼関係作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	常にご家族のお話を聞き、安心して頂ける様な関係作りに努めている。 スタッフ間で情報を共有してケアに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族の必要としている支援を見極めスタッフ間で情報を共有して対応する様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者さんと出来る事は一緒に行い、安心して生活して頂けるような関係作りを築けている。 人生の先輩として学ぶ事も多いので、尊敬を持って接している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の来訪時に記録を見て頂いたり、毎月個人通信を発行して入居者さんの様子を伝えて、コミュニケーションを取りながら共に支えていく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方の来訪は少なくなっている。入居者さんの状態で馴染みの場所に行く事も少なくなっているが、出来る限りご家族の協力も頂きながら支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人の状態や関係性を把握して、入居者さん同士が関わりあえるように時にはスタッフが間に入り繋がれるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	何時でも相談があれば、対応出来る様になっている。今でも退去されたご家族が来訪される事もある。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のケアの中でご本人の思いを聞いたり、くみ取る様に努めている。そこで得た情報をスタッフ間で共有して本人に添った対応をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前や入居時に生活歴や暮らしの状況、病歴などの情報を確認して、入居後は関りを多く持って情報共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のケアを通じ様子観察をして個人記録につけている。スタッフ間で常に情報共有して、変化時は申し送りをしている。出来る事は出来るだけ行って頂く様にして、生活機能を落とさないように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	全スタッフでモニタリングやアセスメントを行い、ご家族の意見も取り入れたり、PTとも話し合いをおこなって本人に添ったケアプランを作成している。 必要時は、ミーティングも行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者さんの日常の様子や変化、言動や対応など個人記録に載せている。スタッフは申し送りや連絡ノートにて情報を共有している。そこで得た情報を介護計画の見直しにも生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族のその時に合わせた支援やサービスの提供を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域支援の把握に努め、支援出来ればと思う。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と連携が取れており、何時でも相談する事も出来て、対応して頂いている。また、本人とご家族が希望する病院にも受診する事も出来て、その際には、日頃の様子をお手紙にて報告させて頂いている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1週間に1度看護師が訪問して下さり、その都度入居者さんの気になる事や心配な事を相談させて頂いている。また、何時でも相談できる関係が出来ているので、その都度、対応や処置、受診の指示を受けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は定期的に面会に行ったり、ご家族に状態を聞いて、スタッフ間で情報共有している。退院時についてもソーシャルワーカーさんを通じて、主治医の先生に相談して頂く等している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	本人やご家族の意向があれば、ターミナルケアを行っている。その際、事業所が出来る事を十分に説明し、方針を共有しながら、ご家族、医師、看護師事業所が連携をとって支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急の講習会等を定期的に行っていて初期対応については学んでいるが、実践力については心配な点もある。必要時には、管理者に連絡する様な体制をとっている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施している。日中だけでなく夜間も想定して訓練を行っている。地域の方にも協力をお願いしている。		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格を尊重し、誇りやプライバシーに配慮して声掛けを行っているが、時々馴れ合いになり、適切でない言葉かけになる時もあるので気を付けていきたい。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の希望や思いをくみ取り、出来るだけ自己決定して頂けるようにしている。自己決定が出来ない場合でも2択で選んで頂く等している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	個々のペースを大切に、それぞれの思いで過ごして頂いている。ただ、希望には添えれない事もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方らしい服装でおしゃれをされたり、お化粧品を楽しまれる方もいて、それぞれに合った支援を行っている。月に一度、訪問理美容をお願いして、本人やご家族の希望に添うように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者さんの好みや形態に合わせて提供している。職員も一緒に会話を楽しみながら食事をしている。食後の食器拭きやお盆拭きを手伝って頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせて提供している。チェック表を用いて食事量や水分量を把握している。1度に摂取出来ない方にはこまめに提供するなど支援している。 その日の気温にも気を付けながら対応を心掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後に口腔洗浄の声掛けを行っている。自力以外の方には介助を行っている。うがいなど出来ない方には、ウエットティッシュを使用している。義歯の方は就寝前に洗浄剤に付け置きしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレのチェック表を活用して、個々に合わせた声掛けや誘導を行っている。 パットを使用している方でも早めに声を掛けて、トイレでの排泄を促している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時に乳製品を取り入れたり、オリゴ糖などを使用している。 また、医師や看護師と相談して、個々に合わせて下剤を使用している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に沿った支援をしている	入浴の時間帯はこちらの都合になっているも、入居者さんの体調に合わせて、午前中にも入浴が出来る。拒否がある場合は、入浴日を変更する様にして、出来るだけ気持ち良く入って頂けるように支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者さんは自由に居室やソファで日中は休まれている。自力で動かせない場合でも時間やその方の様子を把握してお部屋に誘導している。 夜間は眠剤を使用している方もいます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬についての説明書はファイルされていて、いつでも見れる様になっている。 薬が変更になった際は申し送りをして、変化がないか記録に残すようにしている。誤薬する事が無い様に服薬の際は、複数で確認している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に合わせて、食器拭きや簡単なお手伝いをして頂いている。また、歌やボール投げ等のレクリエーション、好きなDVDを観て頂いたり、買い物や散歩なども行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	中々希望には添えられないが、お天気の良い日には散歩や近くの公園に出かける事はある。また、御家族の協力を頂いて外出されている方もいる。事情があって出掛けられない方もほほえみ祭り、クリスマス会等、ご家族に参加して頂き、楽しんで頂いている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	混乱やトラブルにならない様、所持されている方はいないが、買い物など希望される方もいらっしゃるの、ホームで預かっている方もいます。買い物時は本人に渡して支払って頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、何時でも電話をすることは出来る。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用のスペースは明るく、開放感があり、夏はクーラーで冬は加湿器を設置して、温度や湿度に気をつけて快適に生活出来る様配慮している。 また、季節ごとに飾りを変え、模様替えをして、居心地よく過ごせる様にしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個人の居室やホール、食卓など行き来は自由で、思い思いに過ごされている。ホールに置かれているソファはそれぞれに座る場所が自然と決まっています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人やご家族と相談して、個人が使い慣れた物を配置したり、お花や緑を飾ったり、仏壇を持って来られたりして、それぞれに合ったお部屋作りをされている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行や車椅子でも安全に通れる様に、通路は広くしている。トイレや居室も解かりやすい様に名前を表示している。個人の希望に沿って、名前の表示も変える等の対応をしている。		

目標達成計画

事業所名グループホーム すてきだね (ゆたか館)

作成日: 平成 30年 7月 23日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組内容	目標達成に要する期間
1	18	スタッフ不足やスタッフの入れ替わりにより、入居者さんの希望に答えられず、入居者さんを不穏にさせたり、ケアも慌ただしくなってしまう。	落ち着いて対応する。 笑顔で接し、声かけにも工夫する。	業務を優先せず、入居者さん中心で考える。 入居者さんと一緒に出来る事(洗濯たたみ)などは、一緒に行い、時間を共有する。 スタッフ同士協力して、チームワークを大切にする。	12ヶ月
2	14	スタッフ不足やシフトの関係上、勉強会や同業者との交流の機会が減っている。	参加出来る様に改善していく。	シフトの変更など、柔軟に対応を検討していく。	12ヶ月
3	38	入居者さんの希望に添いたいが、(散歩や外出、生活リハビリなど)スタッフが少なく、希望に応じられていない。	出来るだけ、要望に応じられる様に努める。 代替えの案を提案する。	スタッフ間で連携を行い、可能な際は支援する。	12ヶ月
4	34	入居者さんの急変や事故発生時の実践での初期対応に不安がある。	実践力を身につける。	日頃のケアから、意識して取り組む。 研修会へ参加して学ぶ。	12ヶ月
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入してください。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加してください。